

特別支援学級担任の一日

高橋 勇 治

一、はじめに

当校勤務二年目から特別支援学級担任となりました。市教委に提出する文書の作成や交流学級への参加授業の検討・年間の活動計画の作成などに追われた四月でしたが、在籍する三人の子どもたちとの関係作りが最も大切だったので、夜七時過ぎまで勤務することが多い毎日でした。支援学級担任二年目を終えた今自分の勤務実態について振り返ってみたいと思います。

当校は、全校で三百五十人程度・支援学級も含め全十五学級の中規模校です。私の支援学級の担任以外の主な校務分掌は、体育主任です。そのため、春の運動会や夏のプール管理・秋のマラソン大会に向けた準備

などに追われることが多いです。そこで体育的行事の多い前期バージョンと支援学級独特の行事が多い後期バージョンに分けて勤務実態を振り返ります。

二、多忙の実態

〔前期バージョン〕

○七時出勤後授業開始前の主な仕事

・グラウンドの整備及びライン確認

グラウンドのフィールド部分に穴があると一輪車で土を運んで埋めたり、トラック部分の除草などをしました。

運動会前は天候により引いたラインが消えてしまうことがあるので、学年の練習や全校練習に間に合うよ

うにラインを確認し、引き直しをしました。

当校は、マラソン大会をビックスワンで行うのですが、日々の練習はグラウンドで行います。二十分休みマラソンの練習はグラウンドで行います。二十分休みのマラソンタイムを週に二日ほど設定して上下学年部に分けて行くと、大会までにそれぞれの学年部が五回程度走ることとなります。夏休み明けのグラウンドには、かなりの雑草が生えるのですが、せめてトラック内、だけでもと考え、除草をしました。朝だけでは間に合わないので放課後もその作業をしました。この点は職員作業を検討しましたが、そういった時間がとれないのが現状です。

・教材園の水やり

支援学級の教材園でサツマイモや夏野菜を育てています。校舎から少し離れた場所に教材園があるので、道路を渡る危険があるため支援学級の子どもたちにはよほど余裕のある時以外はさせません。他の学年の教材園にも水やりをしておよそ二十分ほどかかります。

・交流学級担任との交流内容の確認

前週にどんな交流をするか打ち合わせ済みなのですが、急な変更を余儀なくされることが多いために、日々交流場所・必要な道具などを始業前に確認するように

しています。

○授業開始から放課後まで

私の支援学級（情緒）には、四年生二人（一人は一月より転入）と六年生二人が在籍しています。今年度は、月曜日から金曜日までほぼ毎日六時間で、空き時間はありませんでした。理科・社会・音楽・体育・総合・外国語で週に一時間ずつの交流をめざしていたので、ほぼ毎日二時間程度の交流学級での支援で学級を空けることとなります。支援員さんが隣の支援学級に配置されていることもあり、私が直接指導できない学年の子どもたちは、隣の支援学級の子どもたちと合同で国語や算数・図工などの授業を受けることとなります。また、隣の支援学級に六年生と四年生がいることから交流学年の授業にも私が支援に行くと、支援学級での授業をほとんどしない日もありました。一階の支援学級と四階の六年生の教室が一番離れた位置にあり、毎日数回往復するとよい運動にもなるのですが……。

休み時間は、計十名の子どもたちが支援学級の教室で風船バレーボールやバランスボールなどで遊びます。晴れた日は、校庭で遊具を使ったり鬼ごっこをしたり

して遊びます。安全面を考えると、子どもたちだけにはできないので、ちよつとしたコピーを取るために二階にある印刷室に行く時も、交流学級の担任に用がある時も、トイレに行く時も必ずお互いに声を掛けてから教室を離れるようにしています。

保護者との連絡は、毎日の連絡ノートでしています。日々子どもたちの様子や翌日の持ち物などを毎日記入しています。給食を早めに終わらせて書いたり、昼休みに書いたりしています。

○放課後から退勤まで（早い日で六時、遅い日で八時）

・運動会やマラソン大会に関わって

昼休みは、教室を離れることができないので、運動会に関わる文章の作成や全校練習に関わる準備などは放課後することになります。朝終わらなかつたグラウンドの整備もやります。今年度は、江南区と北区合同の支援学級の行事である「なかよし運動会」の担当になつたことから、計画立案・関係団体との折衝などにも追われました。

・プール管理に関わって

五・六年生の児童から手伝ってもらつたプール清掃

ですが、清掃用具の確認や清掃後のメザラの取り付けは、私が一人で行いました。昨年は職員作業でやつたのですが、プール脇のメザラをはめ込む作業は、きつちりとはめ込まないとオーバーフローした水によって浮き上がってしまいます。そのため、一人でやつた方がかえって効率的でした。当校の子どもたちは親切な子が多く、放課後作業をしていると進んで手伝ってくれることも多いので助かりました。

さらに、害虫対策のために用務員さんに刈り取ってもらつたプール脇の雑草の片付けを用務員さんで行いました。急にお願ひした作業だけに、用務員さんだけにお任せするのは気が引けたからです。

・教材園の除草

支援学級の子どもたちが安心して育てた野菜を見に行けるように、除草をこまめにしました。四分の一ほどの教材園を使っている支援学級ですが、残りの教材園の雑草も気になります。秋までに数回、全ての教材園の除草をすることになりました。水やりも含めて除草作業は、私のダイエツト防止に役に立ち、他の学年の子どもたちから感謝されました。

・支援学級の子どもに関わる情報交換

昨年までは、水曜日の放課後にじつくりと子どもたちの事や行事の打ち合わせをしていたのですが、その時間がとれなくなつたために、子どもたちが全員が下校した四時以降に子どもたちの様子や今後の対応、行事の打ち合わせや準備を行いました。教務室で、交流学級の担任と起きたトラブルのことや予定などについても話し合うようにしてきました。見通しがないととても不安がる子どもたちですので、分かりやすく説明できるように交流学級の担任から変更部分や不明確な部分を聞いてきました。

教室を空けなければならない時や授業に使うプリントの作成、宿題、プリントの印刷も放課後の作業となります。

【後期バージョン】

○七時半の出勤から授業開始まで

・日々の日程の確認

文化祭・児童会の祭・卒業に向けた練習など後期は、時間表とは異なる日程が次々と出てくるので、朝一に支援教室で子どもたち一人一人の日程を確認し、交流学級の担任に予定表を渡せるように準備をします。

・子どもとのコミュニケーション作り

放課後になると落ち着かないことが多いのですが、朝も妙にテンションが高くトラブルも多いので、子どもたちとのコミュニケーションも大切にしています。教室に入つてすぐにエレクトーンを大音量で鳴らしたり、隣の支援学級の子に悪口を言つてしまうために起きたトラブルの解消などに当たりました。また、寝坊してぎりぎりに登校する子もいるので、朝の支度について声を掛けたり、体調を聞いたりしながら、穏やかな気持ちでスタートできるように支援します。

・サケの飼育に関わる作業

十二月から三月まで毎年、漁協から依頼されたサケの卵を孵化させて育てる活動があります。中学年の全てのクラスでも行つています。支援学級の子どもたちに「サケ当番」を割り当てて、えさやりを朝と昼休みにさせていますが、死んでしまったサケの除去や水替えは、子どもたちにはさせられません。子どもたちが登校する前にサケの除去と水槽の水の量の確認だけは済ませておきます。水替えと水槽の掃除には三十分ほどかかるので、余裕がある時のみ朝のうちに済ませ、放課後行きます。

○授業開始から放課後まで

前期バージョンとかわりません。とにかく教室をなるべく空けないようにします。

○放課後から退勤まで（早い日で六時、遅い日で七時半）

・行事に関わる準備

ハサミを使うことが多い放課後でした。文化祭の共同作品に使うハーツや支援学級独自の行事で使う物を切り取るために、ハサミを手放せませんでした。一時間程やっていると、さすがに手が痛くなります。

ラミネートした葉・葉に結ぶ紐・招待状に貼り付ける花のハーツなど隣の支援学級の担任と二人で、打ち合わせをしながら切り続けました。

授業に関わる準備や子どもや行事に関わる情報交換については、前期バージョンと変わりません。ただ、卒業に伴う卒業文集の書き方や六年生を送る会に関わる練習・卒業式練習などについて、連日話し合うようにしてきました。

【休日出勤】

よほどの事が無い限り、土日は出勤しないようにし

ています。しかし、昨年の夏は猛暑だったので、早朝教材園の水やりのため学校に来ることが度々ありました。

また、二学期制の当校ですが、通知表作成のために七月と三月は出勤しました。記述式の所見欄には多くのことを記入する必要があり、とても間に合わなかったからです。

三、おわりに

「毎日何かに追われている」そんな感じで日々勤務しています。自分の事で精一杯の毎日ですが、昨年やったことで同僚に喜ばれたのは、体育用具室・グラウンド脇倉庫・教材園用の倉庫をそれぞれ一日がかりで整理・整頓したことです。年度末休業と夏期休業の中でやった作業ですが、「きれいになって、使いやすくなった。」と好評でした。また、他の学級担任が個別懇談に追われている中で、校庭にある二本の梅の木から梅を十キロほど収穫して、自由に持ち帰ってもらったのも喜ばれました。

次年度に向けて大きな不安があります。それは、支援員さんがいなくなることです。市教委は、今年一月

に「支援員配置」についての通知を出しました。情緒・知的共に六人以上の児童がいない学級には、支援員が配置されなくなりました。二〇一九年度の当校の在籍予定児童が情緒で三人、知的が四人のため継続申請は出しましたが実現はしませんでした。こどもたちへの具体的な支援や行事などの準備で大きな力を發揮していただいた支援員さんがいなくなることは、子どもたちにとっても私たち支援学級の担任にとっても大きな痛手です。より見通しをもった学級経営が必要になりますし、何よりも子どもたちや保護者に不安をもたせないようにしていかなければなりません。

(たかはしゆうじ 曾野木小学校)

唱歌「赤トンボ」考

唱歌「赤とんぼ」は「故郷(ふるさと)」と並んで国民にもっとも親しみ深い歌である。

ところが最近、山住正巳の『子どもの歌を語る』(岩波新書、1994)を読んで一驚した。私は一番の歌詞の「負われて」の歌詞を「追われて」と理解していた。小学生では漢字で歌詞を覚えた記憶がないから私は「おわれて」を「追われて」と覚えたい。したがってトンボが子供たちに「追われた」と理解していた。だから三番の「十五で姐やは嫁に行き」の歌詞と結びつかない。三番、四番まではめったに歌わないので違和感を感じないできたらしい。

山住によれば、三番抜きでは子ども頃の頃にトンボを追い、桑の実を摘んだ平板な思い出の歌にしかない。先生のちよつとした示唆があれば「すっかり意味が変わっていたはず」といつている。その人の作品の一部を削除することは文化的犯罪とも言っている。

私の誤解は「ごく一般的」誤解であつたらしく、少々安心した。

(大滝)